FEB 2015, №.1

日本創造学会
JCSNEWSLETTER

第37回日本創造学会研究大会は 2015年10月３日-４日、大阪経済大学で開催されます。

大会テーマ「わくわく大学、きらきら企業の創造力」

樋口克次大会実行委員長
（大阪経済大学教授）

徐方啓副実行委員長
（近畿大学教授）

樋口健夫副実行委員長
（アイデアマラソン研究所所長）

熱く変革する大学、輝く企業をつくるのは創造力！すばらしいゲストスピーカーの招致を予定しています。更に、今年の研究大会では、研究成果の発表に加えて、大学や企業で、創造性の改革に、今すぐ活用できる最新の発想法のワークショップも展開する予定です。ご期待ください。
大会についての詳細は、次号ニューズレターでご案内致します。

◆～◆～◆～大会要項～◆～◆～◆

参加方法　：　参加申込書フォームは事務局にメールでご請求下さい。
発表申込　：　参加申込書を記入の際に発表申込欄にご記入ください。発表要項をお送りします。
日　程　　：　2015年10月3日（土）～4日（日）
会　場　　：　大阪経済大学（所在地：大阪府大阪市 東淀川区大隅2−2−8 ）
内　容　　：　講演会・ワークショップ・懇親会・研究発表など
発表申込締切 ： 7月末日　　研究発表論文の締切： 8月末日（厳守）
参加申込締切 ： 8月末日（1次締切）

〈発表論文掲載料〉

①原稿（A4, 1680字）×4枚：2000円
②1枚追加ごとに1000円

※論文の査読は特にありませんが、論文執筆要綱に従った形式で投稿して下さい。事務局への訂正の依頼等は受け付けられませんので、ご了承ください。

〈大会参加費〉

	正会員	学生会員	非会員
事前払込み／	3000円	2500円	4000円
当日払い　／	4000円	3000円	5000円

懇親会費（希望者のみ6000円程度）
詳細/プログラムは5月のニューズレターに掲載予定です。

▲▼▲第35回クリエイティブサロン（2015年 1月17日）開催報告▲▼▲

第35回クリエイティブサロン第1部講演会「療養者の創造的生活」(講師　江口優子氏）は、講師搭乗予定航空便が天候不良でキャンセルとなり、講演は中止となりました。該当時間は参加者による情報交換会が開催されました。

第2部ワークショップ：「新年！笑って健康になる笑いヨガにチャレンジ」

講師：大久保忠男・鈴木敏子・鈴木弥生　（船橋笑いヨガクラブ）

笑いヨガは、インドの医師マダン・カタリア氏（1995年）によって普及が始まった呼吸法「ラフターヨガ」で、現在は70カ国以上で普及している。

その効能は有酸素運動で副交感神経を刺激、セロトニン、エンドルフィン、ドーパミン、ネオアドレナリンを分泌させ疲労回復、精神安定、活力を増進させることである。鈴鹿医療科学大学の橋元慶男によれば、身体心理学の「動作が感情を引き出す」という理論に基づき、ジェームス（1884年）の提唱する情動の抹消起源説の「可笑しいから笑うのではなく、笑うから情動に変化を生じ、だんだん可笑しくなる」に裏付けられる。

軽体操、安静に比べ血圧、脈拍、コルチゾールや、唾液検査における副交換神経を刺激する還元電位に顕著な差が起きるなどの研究成果が報告されている。また、落語の笑いが言語的笑いであり左脳の笑い、あるいは成人など経験者の笑いであるのに比べ、笑いヨガは非言語的笑い、つまり右脳的笑いである。運動のポイントは、丹田で短呼吸で吐き続けること。吐くことのみを続けることで、吸気に意識をおかない点である。さらに笑いとその前後の反笑いの表情変化を大きくすることが肝要である。

精神面では恥ずかしさを越え、自己の殻を破る。以上の動作で横隔膜を刺激し、有酸素運動を助長させ、精神を高揚させる。実際には、手足を伸び伸びと動かし「ワハハハハ、ソーレ、ヤッタヤッタイェーイ、イイゾイイゾイェーイ」と発声しながら、対面でアイコンタクトを繰り返す。さらには、ペンギン笑い、握手笑い、一メートル笑いその他の課題の書いたカードを引かせ、回想と仕草の創造を加えたゲームでも楽しみ、副交感神経の刺激を繰り返すのである。以上の運動の他、真向法、瞑想など静的な運動、心境を付加することで一連の運動が完成する。氏らのモットーは「笑いは最高の装い、上機嫌は最高のアクセサリーである」。

（記事: 理事 田村新吾）

大久保忠男講師と鈴木敏子講師

多くの言語で翻訳され、笑いヨガの原点として世界中で読まれている、創始者マダン・カタリア博士の著書。

参加者K氏の感想：可笑しくも無いのに笑えるのか？3時間も笑っていられるのか？そんな疑問が参加前にはあった。しかしWSがスタートするとすぐに疑問は払拭された。講師の遊び心あふれる投げかけに答える形で参加者は笑い、笑いが笑いを呼び、笑いによって酸素が供給され、モチベーションがどんどんあがる。笑いがエクササイズとなり心身が活性化し、WS終了後は、実に気持ちが良かった。笑いの概念を変えた新しい体験だった。

鈴木弥生講師　大久保忠男講師

第36回クリエイティブサロン開催のお知らせ

研究会担当理事　田村新吾

日本創造学会では2014年よりクリエイティブサロンを開催しています。クリエイティブサロンは2部構成で、主に第1部は講演会、第2部はワークショップが行われます。会員・非会員を問わず、どなたでも参加できる開かれた研究会となっています。各回クリエイティブサロンの日程等詳細は学会HPでご案内しています。

開催日：2015年3月28日（土）13：00～18：00　会場：日本経済大学大学院1階246ホール

第1部
講演会講師：由井薗隆也　氏

北陸先端科学技術大学院大学
知識科学研究科准教授
日本創造学会会員

第2部
WS講師：黒川利明氏

デザイン思考教育研究所主宰
画像電子学会理事国際標準化
教育研究会委員長

講演テーマ：**発想支援グループウェアの研究**
～20年間の取り組み～

日本において、計算機を用いてアイデア発想を支援する発想支援システムの研究が本格的に立ち上がったのは1990年代である。講演者は、幸運にもKJ法を参考にしたコンピュータ実習を1991年に経験し、卒業研究、修士研究、博士研究とKJ法を参考にした発想支援グループウェアの研究に従事してきた。これら学生時代と教員時代の経験を合わせると20年近くに及ぶ。

創造技法とグループウェアを考慮した情報システム研究が、コンピュータネットワーク上に構築されるイノベーション環境を考える上で重要と考え、これまでの研究成果を紹介したい。

具体的に、知的生産技術や野外科学を含むKJ法を参考にした発想一貫支援グループウェアGUNGEN、知識創造企業モデルであるSECIモデルを参考にしたグループウェアGUNGEN-SECI、大画面共同作業支援環境と集合知を考慮したグループウェアKUSANAGIの研究について紹介する。

WSテーマ：**創造性で渋谷の街を切る**
－創造性の活用と評価－

創造性開発には私が関わっているデザイン思考を含めて色々な手法が開発されています。

一方で、創造性が要求される場面も多種多様です。このように多様な文脈の中で、創造性に関わる私達にとって肝心なことの1つは、創造性を 実際に使っていくことです。

このワークショップでは、創造性の発揮・活用と評価に焦点を当てます。創造性の発揮は、どのようか、創造性はどのように活用すべきか。正しい活用と誤った使い方の違いは、などなど色々なことがあります。

そこで、参加者が思い思いに町に出て、それぞれ感じるネタを集めて、創造的に整理し、評価してみます。創造性には、実データ、実物への実体験が欠かせません。それは、発見の喜びを体感するきっかけになることと思います。

《スケジュール》

12：30	開場
13：00-14：00	第1部講演会
14：00-14：30	質疑応答
14：30-15：00	休憩・開場整備
15：00-18：00	第2部ワークショップ（質疑応答含む）
18：30～	別会場にて懇親会

会　場：　日本経済大学大学院1階246ホール
所在地：〒150-0031　東京都渋谷区桜丘町25-17
JR渋谷駅より徒歩3分
参加費：　会員/無料　非会員/資料代500円
※懇親会（希望者）は4,000円程度の実費

※参加希望の方は、学会ホームページより、メールでお申し込み下さい。
［氏名/所属/会員or非会員/懇親会参加の有無］

経路「渋谷駅南改札西口⇒歩道橋対面へ⇒国道246号線沿」

2013-14年度出版の著作賞のエントリーを募集します

著作賞の応募期間は2年毎で、今回の第5回日本創造学会著作賞は2013-2014年度内に発行された著作が対象となります。募集期間は6月末までの予定です。エントリーフォームはこのニューズレターの巻末に添付します。応募の著作や資料の返却はいたしません。（著作は希望者には１冊返却しますが、エントリー時にその旨を申し出て下さい。著作は査読者が精読しますので、新品同様での返却はできません。）

詳しくは、下記「著作賞選考規程」をご確認の上、ふるってご応募下さい。なお、2014年までの会費納入が確認できた方のみ、応募資格があります。

日本創造学会「著作賞」選考規程

下記の「応募基準」を満たした全エントリー著作に関して、「著作賞選考委員会」が審議して候補を決め、理事会において承認し、ニューズレターで公知する。エントリー期間は、基本的に2年毎とする。受賞件数は著作の質に依存するので明確には定めないが、概略、数件程度を目安とする。

[応募基準]

1. 応募の規定年度内に出版されたISBN取得の著作であること。
2. 単著または共著または編著・監修とする。共著の場合、応募者が第一筆者またはそれに準ずる内容量を担当した筆者であることとする。編著・監修の場合、応募者が編著・監修の筆頭責任者であることとする。
3. 著作の内容は、創造性研究・実践に関する学術的または実践的なものとする。
4. 年度ごとの同一著者によるエントリーは1件までとする。
5. 過去の著作を改訂した再版は応募資格があるが、増刷は応募資格なしとする。
6. 会費完納の会員であること。

[応募手続き]

Ⅰ．自薦の場合

1. 学会事務局より送付される、エントリーフォームに必要事項を記載し提出する。
2. 著作の概要をA4版2枚以内（3千字以内）にまとめたもの3部（著作のオリジナルな点を明記する）を提出する。
3. 審査用に著作を3冊日本創造学会に寄贈する。

※応募書類・著作・資料の返還は行わない。（著作返還希望者はエントリー時に申し出る）

Ⅱ．他薦の場合

1. 他者を推薦できるのは学会賞委員のみとする。
2. 他薦する場合、著者に推薦者より連絡をとり、両名のどちらかがエントリーフォームおよび自薦の場合と同等の形式で著作の概要を書き3部を提出する。
3. 学会への納本については、最低1冊は寄贈し、残り2冊については著者より借りる（寄贈でも良い）。
4. 他薦エントリーの場合、納本やエントリー条件を満たす書類の事務局への送付などは基本的に推薦者が手続きの責任を負う。
5. 学生会員も推薦対象になる。

※応募書類・資料の返還は行わない。貸与された著作は著者に返還される。

[選考基準]

以下の点等に基づいて、選考する。

1. 学術的な価値の高いものであるか。
2. 実践的な価値の高いものであるか。
3. 創造性研究・実践の新たな地平を拓くものであるか。
4. 世界の創造性研究・実践に影響を与えるものであるか。
5. 受賞対象が共著・編著・監修の場合、著作中の本人執筆の割合も考慮し、評価の対象が執筆内容であるか、編集・監修の技術か等、選考委員会が妥当と思われるカテゴリーの賞を選定する。
6. 社会的評価の高いものであるか（下記の諸点に関して社会的評価がわかるものがあれば添付する）。
   - ・他者の研究に引用されている。・基調講演やシンポジウム等の文献となっている。
   - ・新聞・雑誌等の書評で紹介されている。・海外で翻訳されている。
   - ・インターネット等で言及がある。
7. 応募著作により、学術部門と啓蒙部門に分けて選考することができる。
8. 著作賞の質を守るために、「該当なし」の結論になることもある。

書籍紹介

※このコーナーでは、日本創造学会会員の著作を紹介致します。

著作名：『リセット力で今からの脱出』
著者：豊田貞光（日本創造学会会員・(学)産業能率大学経営管理研究所主席研究員）
産業能率大学出版部　　価格1836円（税込）

たとえどん底に落ちても夢と希望を持ち、周囲を巻き込みながら力強く復活を遂げる。変革を起こすリーダー達は苦境下でもたくましく這い上がる底知れぬパワーを発揮して来た。彼らが発揮した力がリセット力だ。仕事に、人生に行き詰まった時、全てをやり直そうと再スタートを切る。それには固い意志と決断力が必要で、大きなエネルギーを使うことになる。本書は第1部を物語編とし、苦境を乗り越える主人公の姿から、リセット力をイメージしやすいように描写する。そして第2部の知識・理論編で、心理学、行動科学、知識創造論、リーダーシップ論から解説する。30代向けリーダー入門書であるが、閉塞感を打破し、自分の強みを生かして道を切り開きたい人に絶好の教科書となる。

日本創造学会会員の方でご自身の著作を紹介したい方は『著作紹介希望』とお書きの上、著作名・刊行年月・出版社名・税込価格・紹介文（300字程度）・書籍画像を事務局までお送り下さい。
学会機関紙でとりあげることが可能な書籍であるか検討の上、該当書を紙面で紹介させていただきます。
（書籍は創造性関連の他、学術・教育・啓蒙関連書籍を受付けいたします。）

●●●●●2014年度論文誌の発送と論文推薦投票について●●●●●

会員の皆様のご協力により、2014年度日本創造学会論文誌Vol. 18が発刊の運びとなりました。3月中に会員の皆様のお手元に発送致します。メール便（ポスト投函）での発送となります。転送はされませんので、住所変更のある方は事務局までお知らせ下さい。
（2014年度の会費未納の方には発送されません。）

【論文賞推薦用紙について】

論文誌に同封して、正会員の方に2014年論文誌の論文賞投票用紙を同封致します。（学生会員の方には投票権はありません）
掲載された論文の中から、独創的で学術的な価値があり、日本創造学会論文賞にふさわしいと思う論文２編を選び、推薦して下さい。推薦理由は、できるだけ詳しく記載して下さい。

【投票方法】 事務局への郵送・FAXまたはPDF化してメール添付で送信

【推薦投票の締め切り】 6月末
投票結果は学会賞委員会がとりまとめ、投票結果を参考に審議し、論文賞を決定します。
学会賞委員は、表彰担当理事が推薦し理事会承認を得て構成されます。
論文賞受賞者は2015年度研究大会中の学会賞表彰式にて表彰されます。

2015年度学会賞委員
徐方啓、櫻井敬三、奥正廣、澁谷貞子、高橋誠 、樋口健夫、田村新吾、前野隆司、西浦和樹、川路崇博、國藤進、白坂成功、澤泉重一、豊田貞光

日本創造学会論文誌Vol.1-18　全18巻（1996年～2014年）
研究大会論文集（2002年～2014年）は学会事務局にて販売しています。

●論文誌新刊（2014年版Vol.18）	書籍/ DVD	価格3,000円
●論文誌バックナンバー	DVD	価格2,000円
●研究大会論文集	DVD	価格2,000円

※論文誌バックナンバーと研究大会論文集はDVDデータ（PC対応）となります。
発送の際にはメール便送料実費がかかります。
各号論文誌・論文集に採録された論文タイトルは学会HPで確認できます。

◆◆◆新入会員紹介◆◆◆

※個人情報が含まれますのでWeb版では削除しました

2015年度の会費納入について

2015年度の会費納入の書類を3月中に発送させていただきます。(納入書類は2014年度論文誌と同封で発送されます。)大会発表、著作賞エントリー、論文誌への投稿などは会費が完納であることが条件となっております。充実した学会活動を展開するためにも、納入忘れのないよう、お願い申し上げます。

なお、論文誌は、前年度会費を納入している方のみに送付させていただいております。2014年度の会費納入しているのに論文誌が3月中に到着しない方は事務局までお問い合わせ下さい。

未納会費の振込は下記の口座にお願い致します。

日本創造学会年会費納入先口座
ゆうちょ銀行(金融機関コード9900) 店番019 店名 019店(ゼロイチキュウ店)
当座 0126409 ニホンソウゾウガッカイ

■会員登録情報に変更がある方はお知らせ下さい■

年度がわりにともなう、住所・所属・連絡先・メールアドレス等の変更がある方は、学会事務局まで変更をお知らせ下さい。

ニューズレターや各種セミナー、研究会等のお知らせは、すべて電子メールで配信されております。

登録アドレスは、皆様に有用な情報をお届けする窓口となっておりますので、よろしくお願い致します。

事務局メッセージ

世界的ヒット商品となっている『自撮り棒』をご存知ですか？デジカメ等に装着して自撮りするための器具ですが、この製品は創造学会の会員である上田宏さんが30年前に開発し、米国で特許を取得しました。30年の時を経て、時代が上田さんに追いついたようで、上田さんは今、テレビ・ラジオ・新聞等様々な内外のメディアから取材を受けています。創造学会には、創造力を発揮し、時代を先取りした素晴らしい会員の方々が、数多くいらっしゃいます。

日本創造学会 ニューズレター
2015年2月発行 (№1)
日本創造学会事務局
発行人 ：櫻井敬三
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0015 千葉県市川市鬼高
4－7－6－816
Tel 080－3465－6152
Fax 047－314－6380
e-mail：jcs-info@japancreativity.jp
http://www.japancreativity.jp/

日本創造学会第5回著作賞エントリーフォーム

（2013年－2014年出版）

氏名　　印

所属

いずれかに○
（単著 / 共著 / 編著 / 監修）

住 所

電 話　　（　　）

書名

E-mail　　@

出版年月日　20　　年　　月　　日

出版社名

応募部門　一つに○　（学術部門 / 啓蒙部門）

著作推薦の理由

日本創造学会著作賞は応募基準を満たし、適正な応募手続きによりエントリーされた著作を対象に、学会賞委員会で厳正な審査を行います。